

2012年3月期 決算説明資料 (2011年4月～2012年3月)

2012年6月8日(金)決算説明会 発表資料

東洋合成工業株式会社

■ 目次

1. 2012年3月期 決算概要 (P 3～)
2. 2013年3月期 通期見通し (P12～)
3. 今後の展望 (P15～)

1 . 2012年3月期 決算概要

2012年3月期 決算(連結)のポイント

- 売上高は前期比94.5%、予算比93.0%**
 - 世界的な景気減速により感光材および香料の売上が減少。
 - 円高による販売単価の下落及び競争力の低下により、売上は計画未達。
- 経常利益は前期比66.5%、予算比111.7%**
 - 円/ドル平均レート 前期87円 当期79円 前期比で売上△341百万円、利益△280百万円の影響。

科目 (百万円)	前期 実績 (A)	当期 実績 (B)
売上高	14,759	13,952
営業利益	976	641
経常利益	789	524
当期純利益	421	384

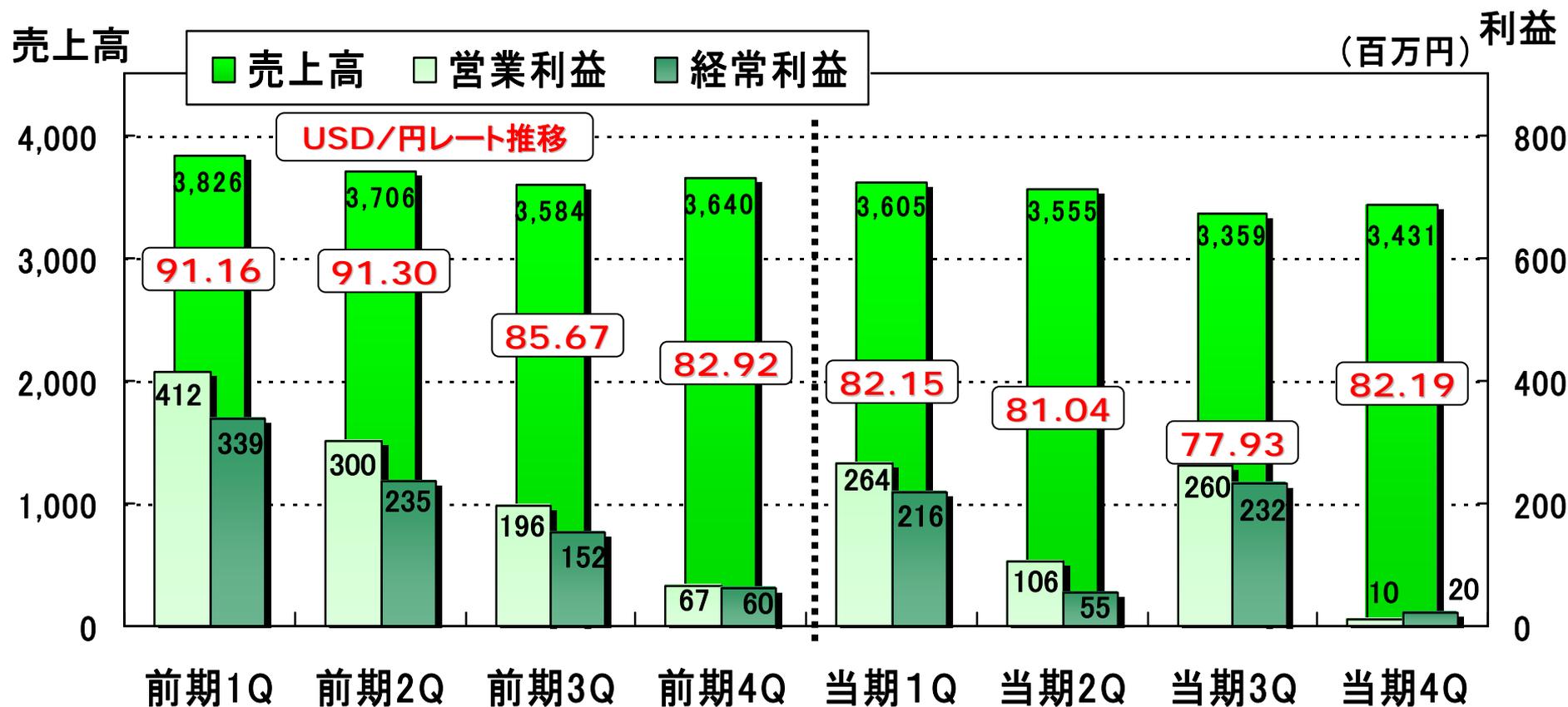
計画 ※ (C)
15,000
630
470
430

(B) / (A) 前期比	(B) / (C) 計画比
94.5%	93.0%
65.7%	101.8%
66.5%	111.7%
91.3%	89.5%

※2011年11月10日発表

■ 全社 売上高・営業利益・経常利益 四半期別推移

売上高・・・円高進行により、海外売上高が減少。
 利益・・・2Qは大規模修繕による稼働率の低下、
 4Qは在庫の廃棄及び評価減を実施し、約1億円の利益減少。



感光性材料事業 売上高・営業利益

売上高は、前期比9.1%減少。営業損失は、前期比13百万円の増加。

- 利益率の高いArF関連製品の売上比率を上げるも、円高により売上高、利益ともに減少。
- 円高による影響額は前期比で売上高△ 298百万円、利益△294百万円。

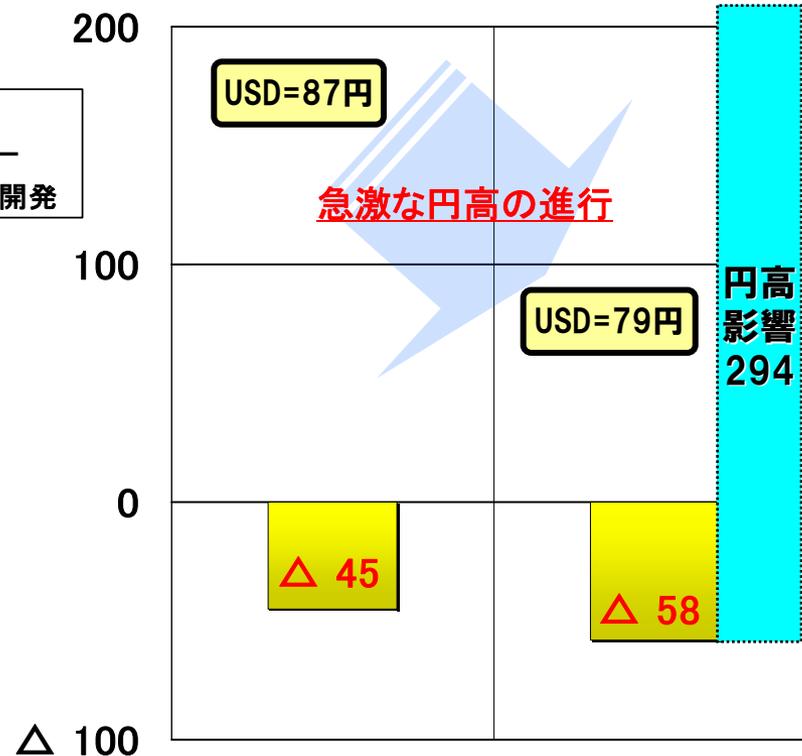
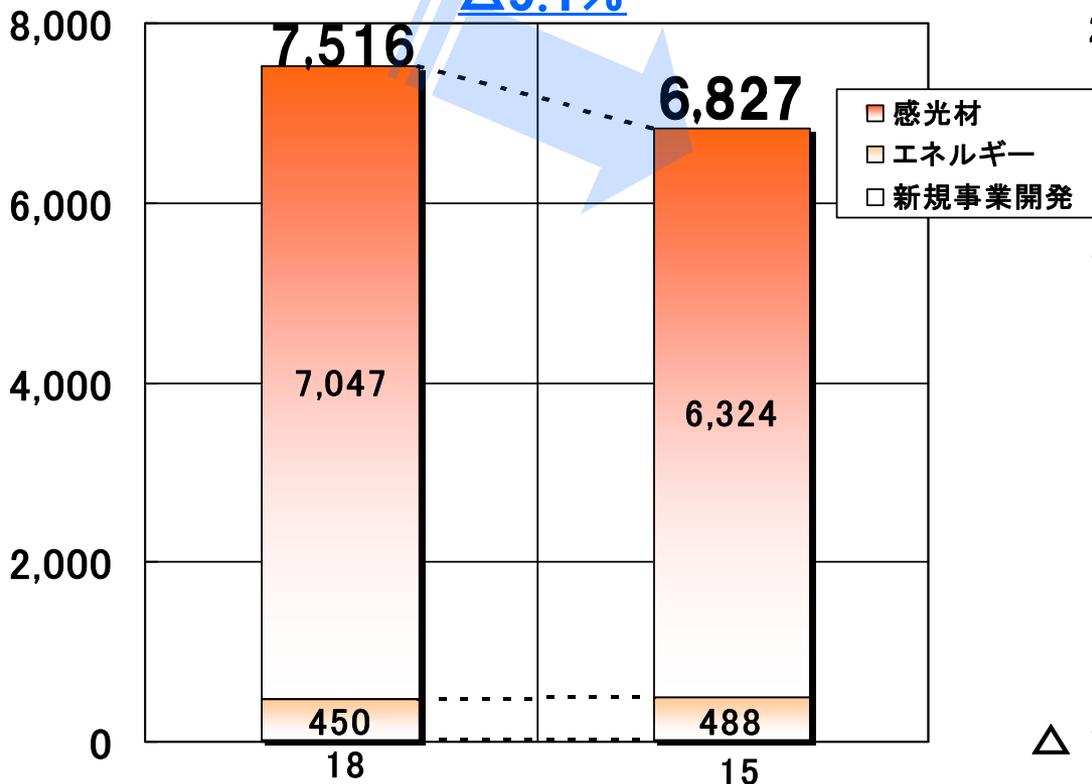
売上高

営業利益

(百万円)

前期実績 $\Delta 9.1\%$ 当期実績

前期実績 当期実績



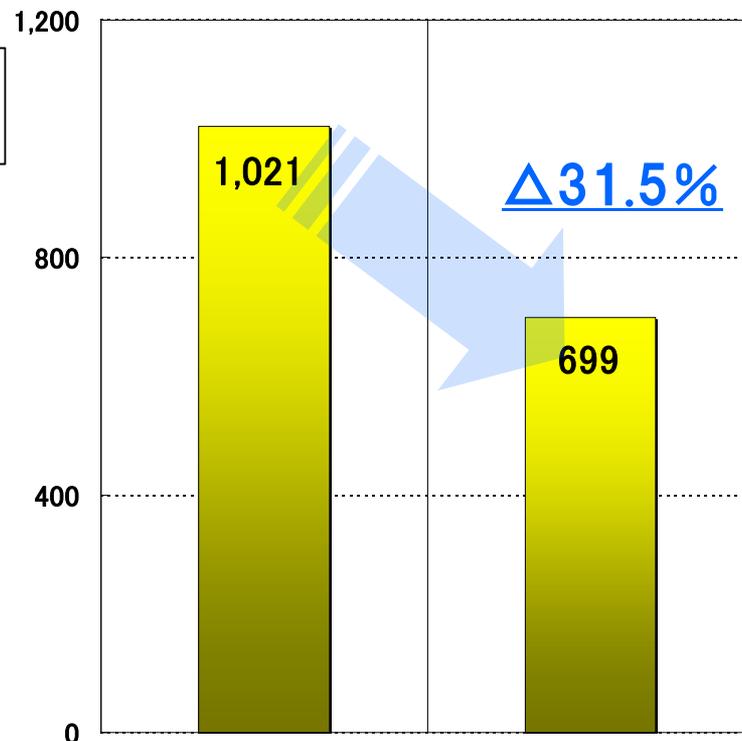
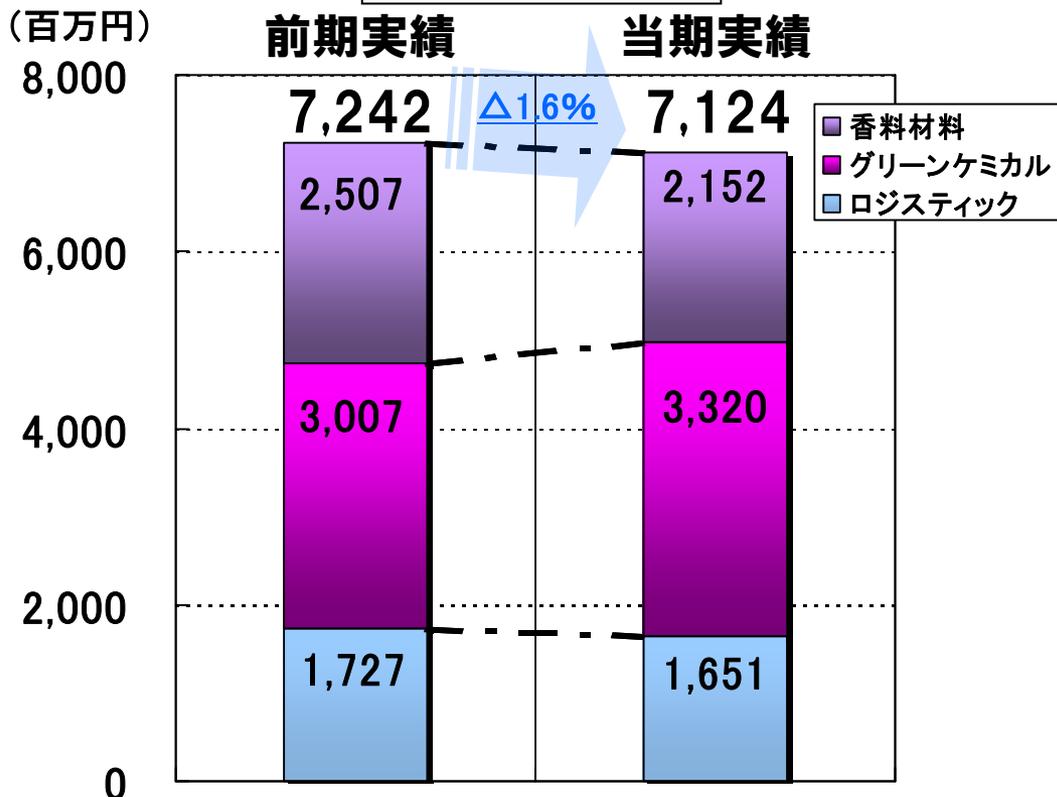
△ 100

■ 化成品事業 売上高・営業利益

- ・ 売上高は、前期比1.6%の減少。営業利益は前期比31.5%の減少。
- グリーンケミカル部門は積極的な営業活動により売上増加。
- 香料材料部門は、欧州の景気減速と円高による競争力の低下により売上高、利益ともに減少。
- 香料工場のタンク稼動(9月)により償却負担が約1億円増加。

売上高

営業利益



2012年3月期 連結損益計算書

【販売管理費】 本社移転費用および、新工場要員含め人員増加による人件費負担増加。

【営業外収益・費用】 為替差損の減少(24百万円)。支払利息は横ばいで推移(146百万円)。

【特別損失】 前期、災害損失(247百万円)および固定資産除却損(173百万円)を計上。

科 目 (百万円)	2011年3月期 決算(連結)実績	2012年3月期 決算(連結)実績	対前期比	
			増減額	増減率
売上高	14,759	13,952	△806	△5.5%
売上原価	11,503	10,865	△637	△5.5%
売上総利益	3,255	3,086	△169	△5.2%
販売管理費	2,279	2,444	+165	+7.3%
営業利益	976	641	△334	△34.3%
営業外収益	70	68	△1	△1.9%
営業外費用	257	185	△71	△27.9%
経常利益	789	524	△264	△33.5%
特別利益	0	6	5	—
特別損失	459	20	△439	△95.5%
税引前当期純利益	330	510	+180	+54.7%
法人税等・少数株主持分利益	△90	126	+216	—
当期純利益	421	384	△36	△8.7%

2012年3月期 連結貸借対照表

【流動資産】 前期末震災による在庫減少から1,076百万円の増加。 ※参考2011年2月比+701百万円
 【固定資産】 香料工場及び淡路工場への設備投資を含め2,290百万円の増加。
 【負債】 香料工場投資資金997百万円の調達。コミットメント2,150百万円を組成も期末時点未使用。

科目 (百万円)	2011年 3月期 (連結)	2012年 3月期 (連結)	増減	科目 (百万円)	2011年 3月期 (連結)	2012年 3月期 (連結)	増減
流動資産	8,023	9,960	+1,937	負債	16,199	20,063	+3,864
現金預金	1,076	1,808	+732	仕入債務	1,937	1,931	△5
売上債権	2,530	2,574	+43	有利子負債	11,084	13,308	+2,224
棚卸資産	4,102	5,178	+1,076	その他	3,177	4,823	+1,646
その他	314	398	+84				
固定資産	14,393	16,659	+2,265	純資産	6,217	6,556	+338
有形固定資産	13,407	15,697	+2,290	株主資本	6,228	6,565	+337
無形固定資産	442	407	△34	評価・換算差額	△11	△10	+1
投資・その他	543	554	+10	少数株主持分	0	0	0
資産合計	22,416	26,619	+4,203	負債・純資産合計	22,416	26,619	+4,203

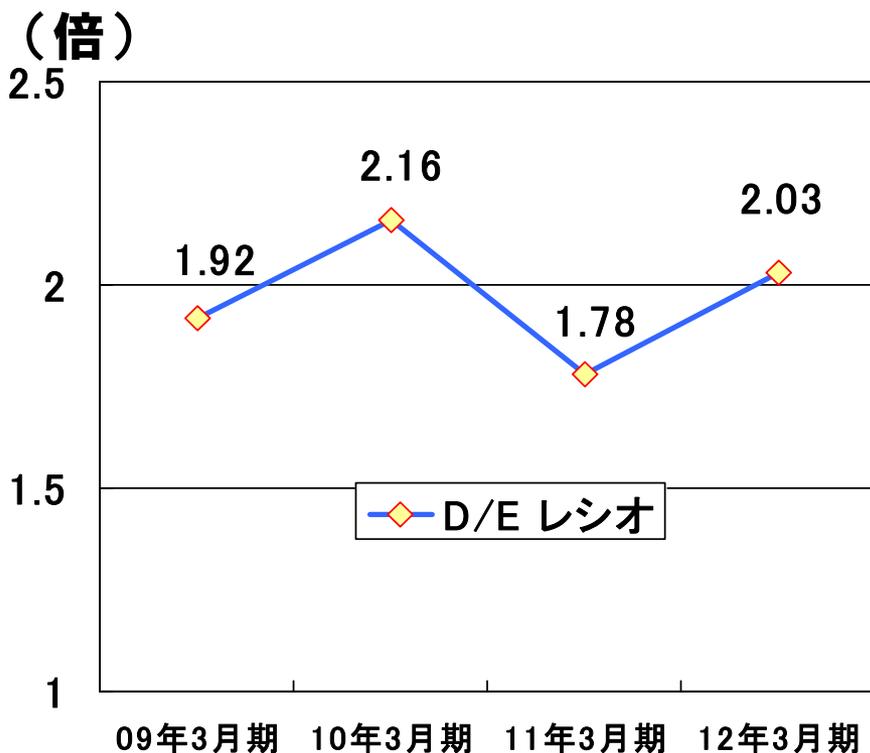
2012年3月期 連結キャッシュフロー計算書

- ・税前利益は増加も、在庫増による運転資金増加により営業CFは減少。
- ・設備投資28億円を実施したため、借入残高は133億円(前期比+22億円)へ。

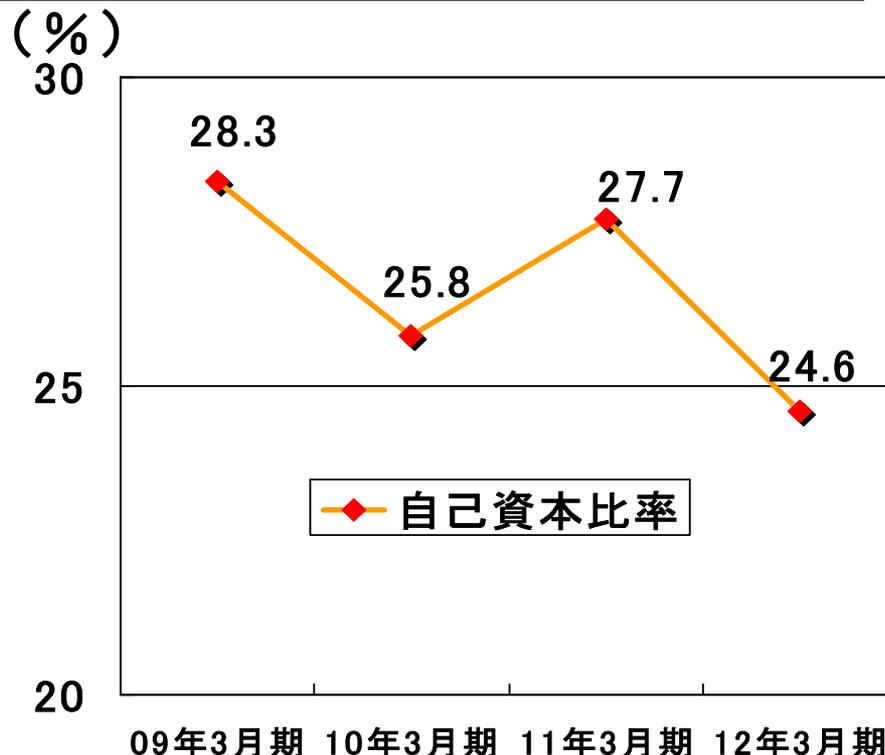
科 目 (百万円)	2011年3月期 (連結)	2012年3月期 (連結)	増減
営業活動によるCF…(A)	2,240	1,481	△ 759
税金等調整前当期純利益	330	510	+180
減価償却費	1,873	1,841	△32
たな卸資産の増減額	△173	△1,076	△903
その他運転資金の増減	△168	△50	+118
その他	378	256	△121
投資活動によるCF…(B)	△726	△2,877	△2,150
フリー・キャッシュフロー(A+B)	1,514	△1,396	△2,910
財務活動によるCF	△1,754	2,121	+3,875
現金及び現金同等物の増減	△252	+722	+975
現金及び現金同等物の期末残高	576	1,298	+722

■ 「D/Eレシオ」・「自己資本比率」の推移

- ・増加運転資金および設備資金を、借入金で調達をしたため、D/Eレシオは上昇。
- ・当期利益384百万円が純資産を増加させるも、たな卸資産の増加、および香料工場等の固定資産の増加が影響し、自己資本比率は24.6%へ減少。



D/E(デッド・エクイティ)レシオ=借入金/純資産



自己資本比率=純資産/総資産

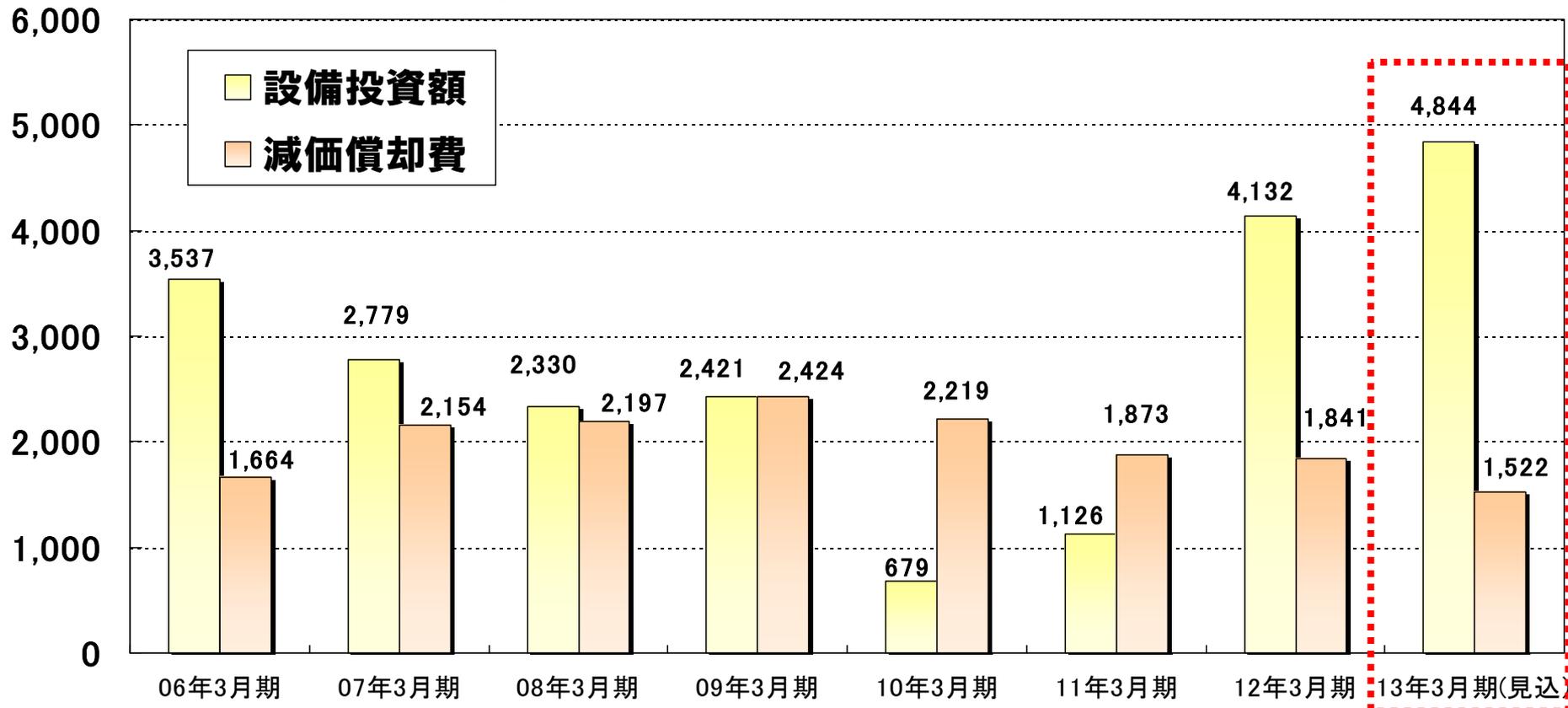
2. 2013年3月期 通期見通し

■ 設備投資と減価償却費の推移および計画

- ・62期 香料工場2,553百万円、淡路工場548百万円を実施。
- ・63期 香料工場償却負担254百万円、淡路工場は64期より償却開始見込み。
- ・償却方法を定率法から定額法へ変更し、63期の減価償却費は15億円を見込む。

(百万円)

設備投資額と減価償却費の推移



■ 2013年3月期 業績予想

- ・売上高は通期で150億円を計画(上期:72億円 下期78億円)
- ・償却方法の見直しを実施。定率法⇒定額法
- ・為替レートは、通期 ドル/円78円、ユーロ/円100円で計算。

科目 (百万円)	2013年 3月期(連結) 上期業績予想	2013年 3月期(連結) 下期業績予想	2013年 3月期(連結) 通期業績予想	2012年 3月期(連結) 実績	前期比 増減額
売上高	7,200	7,800	15,000	13,952	+1,048
営業利益	△70	190	120	641	△521
経常利益	△120	140	20	524	△504
当期純利益	△130	130	0	384	△384

3 . 今後の展望

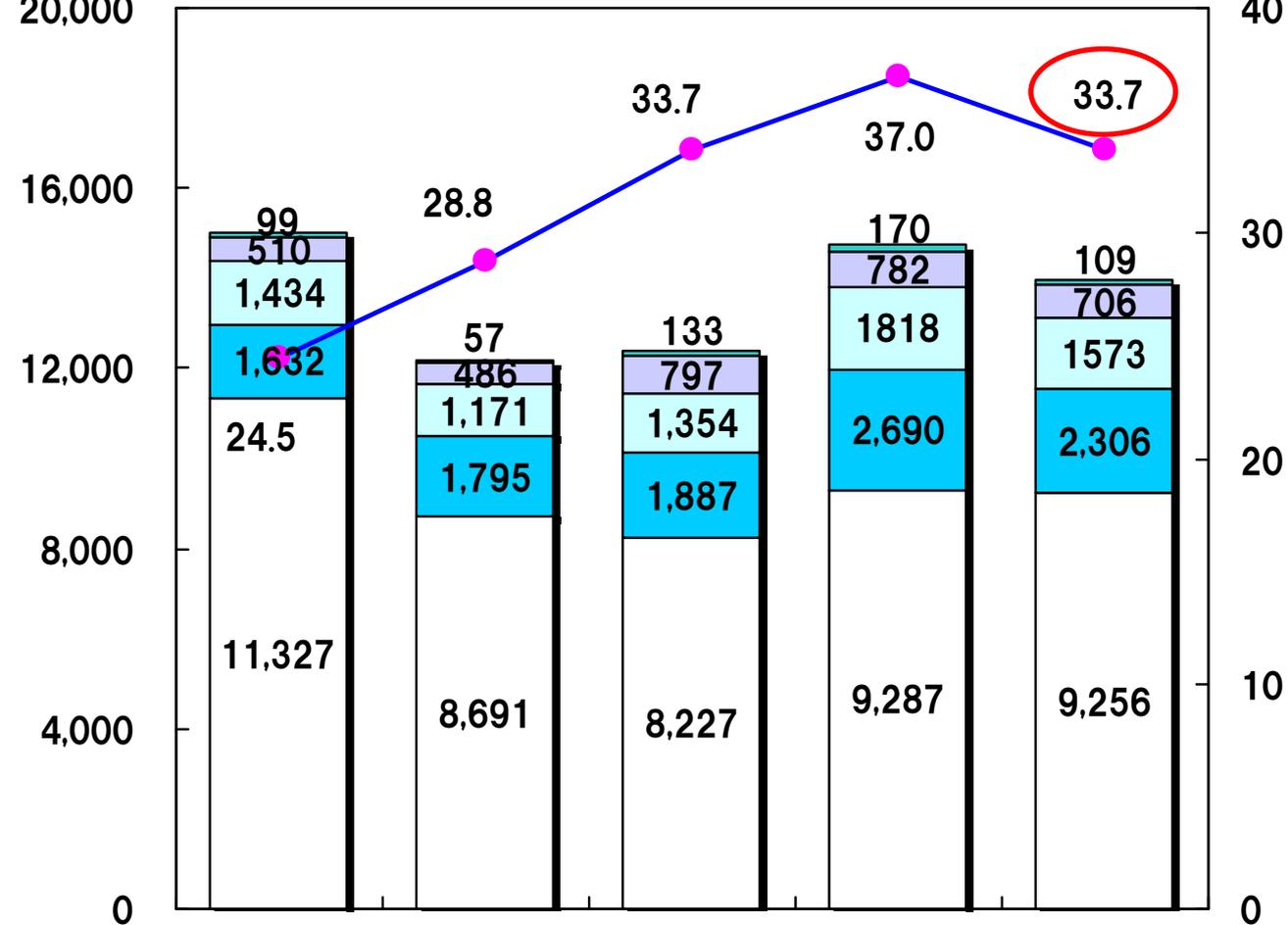
海外売上比率・為替の影響

■地域別売上高・海外売上比率推移

海外売上比率

(%)

売上高
(百万円)
20,000



国内 アジア 北米 欧州 その他 海外売上比率

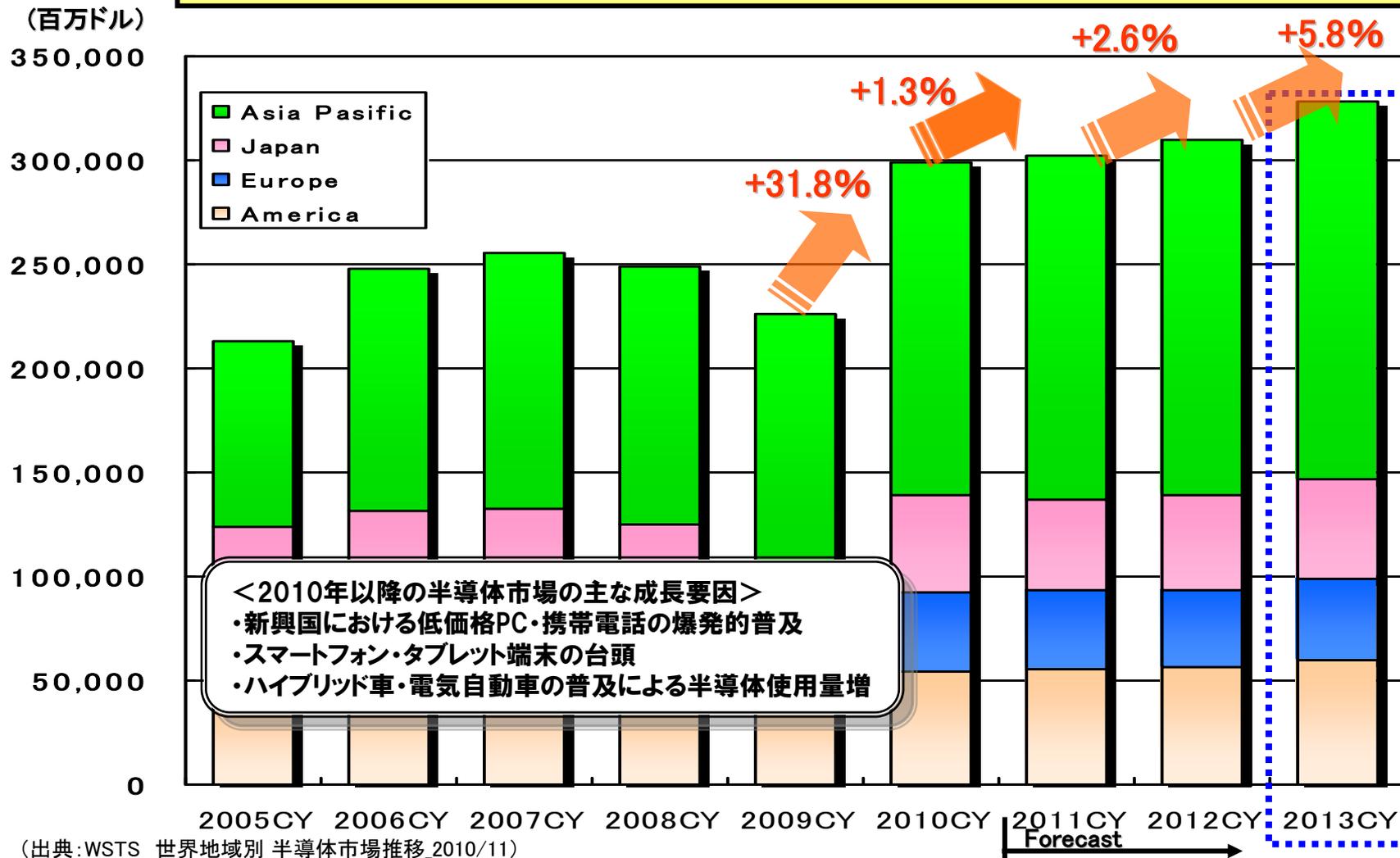
【為替について】
近年の輸出増加により、
為替変動リスクも年々
増加している。(当社課題)

■USドル
1円の変動による
利益に対する影響額
・・・約33百万円(年間)

■ユーロ
ユーロ建て取引は僅少。
直接的なリスクは少ない。

半導体マーケット概要

- ・2013年の市場成長率は、+5.8%と堅調に推移する見込み。
- ・近年の半導体市場は、微細化が進んだ先端品の割合が上昇している。



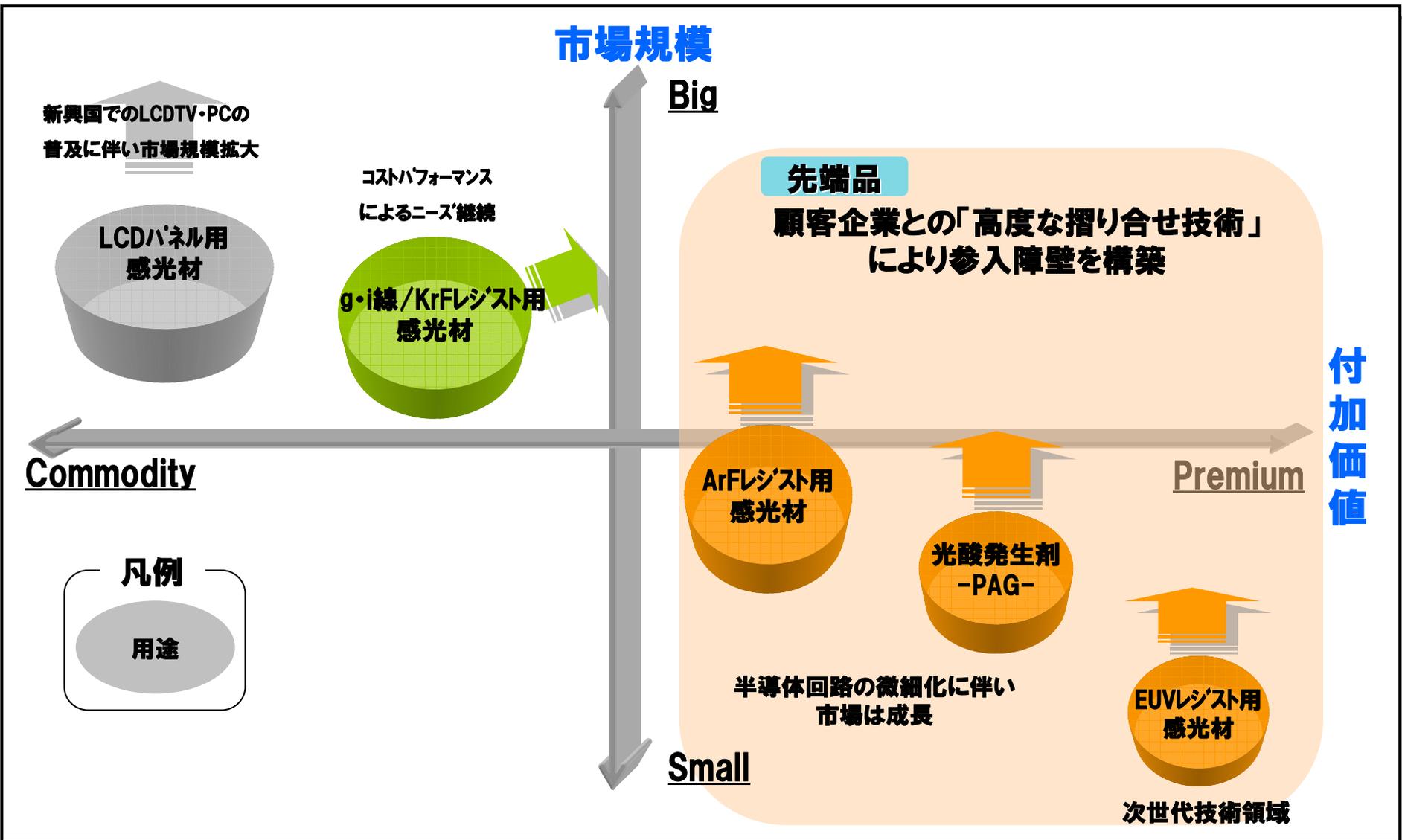
■ フォトレジスト材料 用途別一覧

- ・半導体の微細加工技術が進化し、20nmレベルまで量産化。
- ・現在はArFの技術を改良し、微細化を進めている段階。(当社アプローチ領域)

光源	LCDパネル用		半導体用						
	g線	i線	既存品				先端品		開発中
			g線	i線	KrF	ArF	ArF液浸	ArF ダブルパターニング	EUV
ノード	~2,000nm	~1,000nm	~700nm	~200nm	~110nm	~65nm	~45nm	~22nm	~16nm
用途	テレビ用パネル	小型パネル	パワー半導体	NANDメモリ MPU GBメモリ	NANDメモリ MPU GBメモリ	NANDメモリ 2コア GBメモリ	4コア GBメモリ TBメモリ メモリ		最先端メモリ・ プロセッサ
市場	新興国の 需要増 価格下落	LTPS (PDA,カーナビ、 携帯電話) の拡大	緩やかに縮小	緩やかに拡大 延命化	拡大 延命化	拡大	急拡大		プロトタイプ 露光機販売中 材料開発中

← 当社製品・研究開発のアプローチ範囲 →

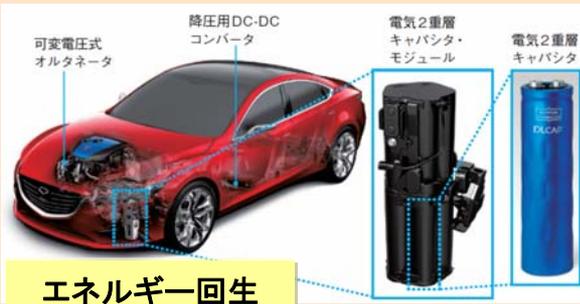
感光材市場における当社ポジションイメージ



電気二重層キャパシタ 用途

大型 用途

車載向け



小型 用途

- 携帯電話
- デジタルカメラ
- PC
- 携帯オーディオ
- DVD、BRレコーダ
- カーナビ
- おもちゃ
- 時計

従来品

風力発電



瞬低補償



図 4



建機

図 5



港湾クレーン

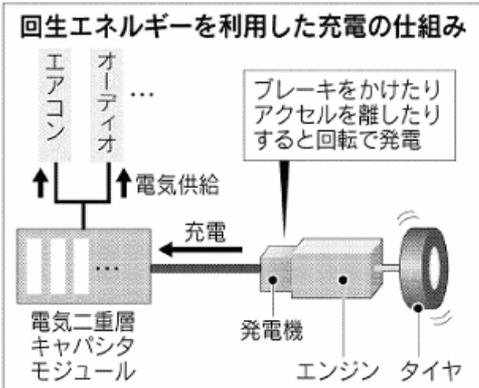


路面電車

電気二重層キャパシタ 最新ニュース

マツダ車が2012年から市販車に投入予定
減速時の運動エネルギーを電力として回収 → 低燃費化に貢献

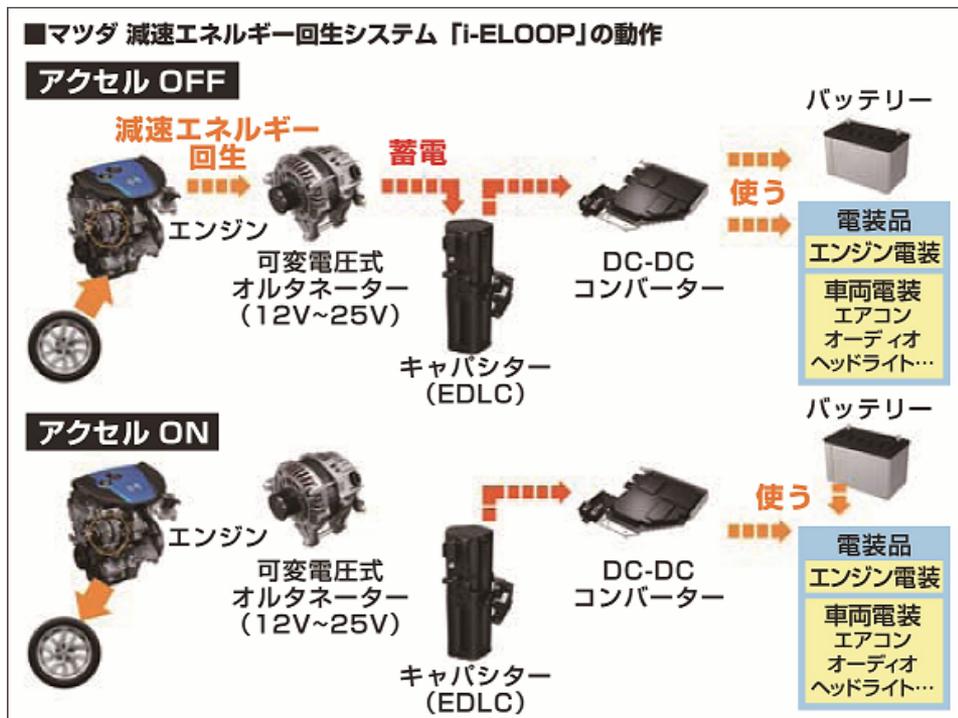
日本ケミコンは6日、自動車向けに容量を大きくした蓄電部品を開発したと発表した。リチウムイオン電池などの大型電池を搭載しないガソリン車や、ハイブリッド車（HV）への搭載を想定している。製造子会社のケミコン山形（山形県長井市）に新ラインを整備して2012年春に量産を始め、13年に月産個数を30万に引き上げる計画だ。今回開発した電気二重層キャパシタは、マツダ専用の製品。同社が12年



2011年12月7日日本経済新聞朝刊

車向け大容量蓄電部品 日本ケミコン 来春から量産

に売り出す乗用車に搭載する計画という。高さ15センチの電気二重層キャパシタを10本程度まとめ、モジュール（複合部品）として搭載する。



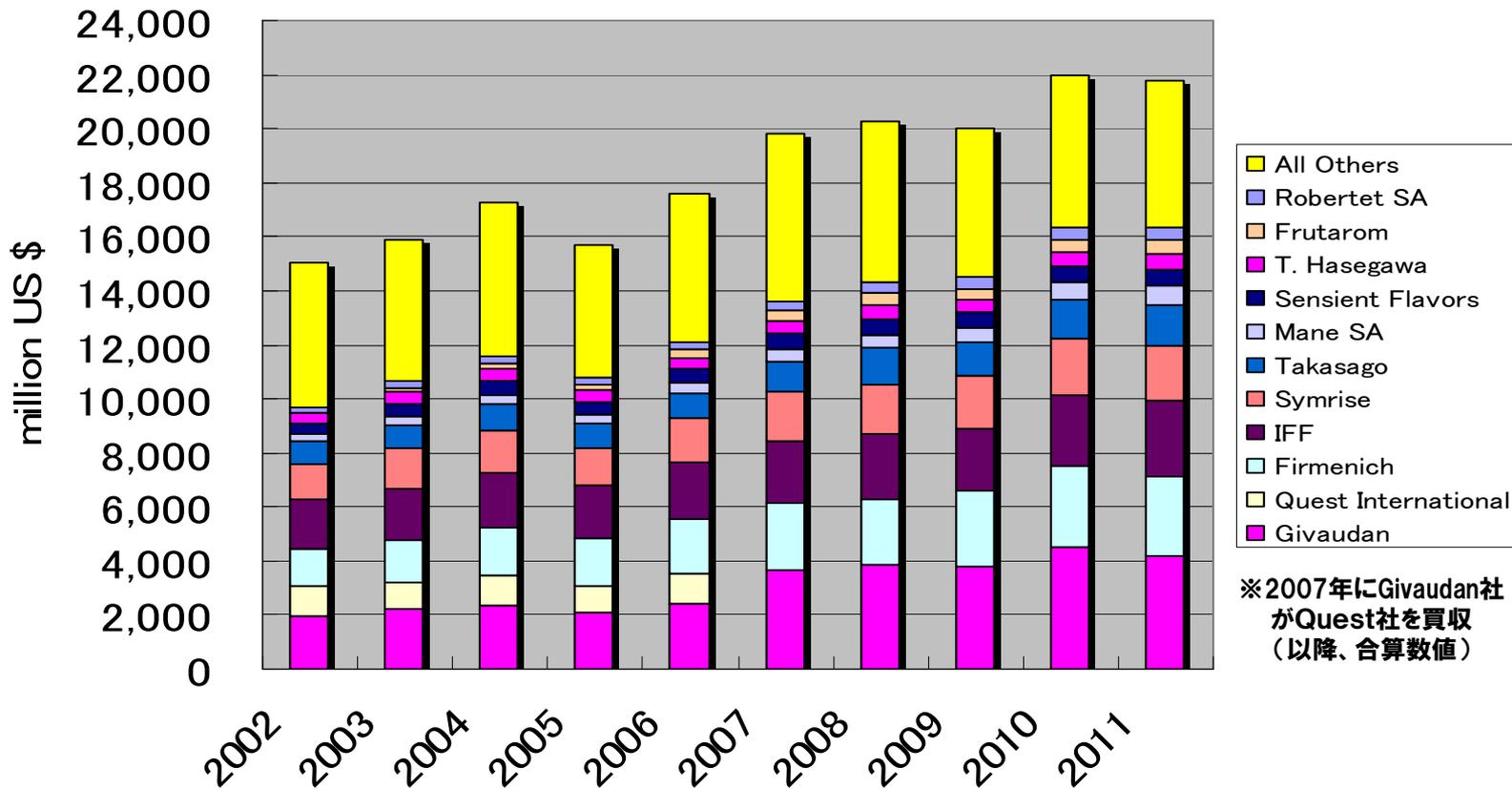
マツダ株式会社 HPより転載
<http://www.mazda.co.jp/philosophy/tech/env/engine/i-eloop.html>

香料マーケット概要

- ・トイレタリー市場の2003～2008年の年平均成長率は8%。
- ・特に発展途上国市場(南アメリカ・中国・アジア・インド地域)は、経済成長に伴い2桁成長と市場が急拡大しており、トイレタリー製品に使用される香料需要(フレグランス)も増加傾向。

世界の香料市場の推移

香料メーカー別売上高



■ 香料工場建設概要および今後の課題

- ・大幅な円高による販売単価の下落。以下の対策を講じる。
 - ① 既存品に加え、新製品を開発。(今期中に数種を上市予定)
 - ② 海外からの原料調達を拡大。(円高メリット享受)
 - ③ 香料以外の用途に対して新規案件の確保。

香料工場概要

- ・所在地: 千葉県香取郡東庄町宮野台
- ・面積: 約25,000㎡
- ・投資金額: 30億円
- ・稼動時期:
 - タンクヤード・・・稼動済み
 - 製造設備・・・2012年6月稼動予定



■ グリーンケミカル部門 展望

市場環境

- ・電子材料業界の市況回復
- ・国内電機・電子メーカーの「コスト削減ニーズ」および「環境保全意識の高まり」を背景に溶剤リサイクル需要は増加傾向

当社の強み

- ・感光材で培った PPB・PPTレベルの高い品質管理
- ・電機・電子関連の製造工程で使用される各種溶剤ニーズに対応し、蒸留技術の高度化に対応中
- ・多成分からの単離技術を活かし、溶剤リサイクルニーズを取込み

淡路工場の概要

所在地:兵庫県淡路市生穂新島
面積:50,500m²

工事の進捗

- 土地造成工事:2億円(上期中に完了予定)
※津波対策含む
- 施設建設工事:16.5億円【1期工事】
※稼動予定:2013年3月

主な生産品目

リチウムイオン電池製造工程で使用する溶剤

電子材料(IC・FPD)製造工程で使用する溶剤

生穂新島航空写真

当社取得地



<関西地区>

リチウムイオン電池工場マップ



ロジスティック部門 概要（ファインケミカル専用倉庫業）

高い参入障壁と好立地条件

参入障壁

- ・東京湾岸での新規参入は、消防法規制による高いハードルがあり、困難

立地優位性

- ・東京湾岸に立地し、高速出入口にも近接
- ・好立地と抜群の交通アクセス

サービスの差別化

充実した設備

- ・多様な受入形態・保管施設を有し、充実した受払サービスを提供

高付加価値サービス

- ・ファインケミカル事業で培ったノウハウを活かし、品質管理に強み

為替変動への対応

- ・円安時・・・日本からの輸出品のストックヤードとしてのニーズ
- ・円高時・・・海外からの輸入品のストックヤードとしてのニーズ（近年、中国からの輸入品が増加傾向）



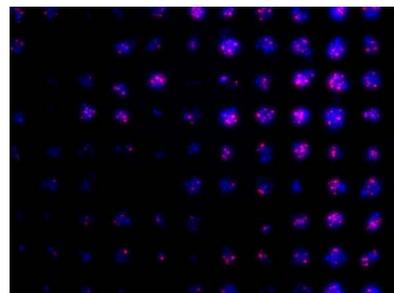
東京大学・片岡教授の研究成果と東洋合成工業の水溶性感光材を利用した”Cell-able™ Oncology”は様々ながん細胞の三次元培養を可能にしました



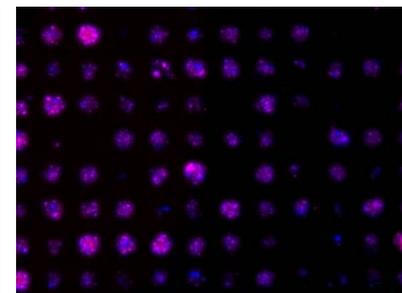
患者由来
がん細胞



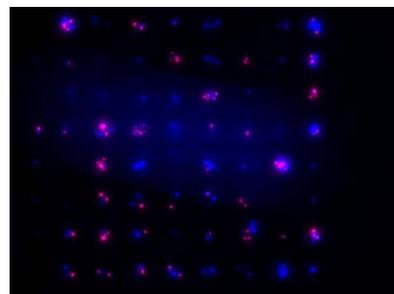
Cell-able™ Oncology



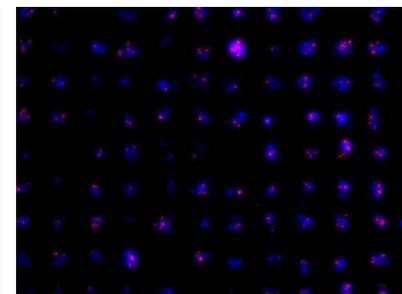
肝細胞がん



頭頸部がん



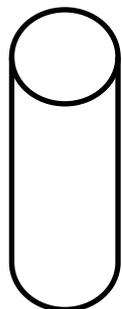
メラノーマ



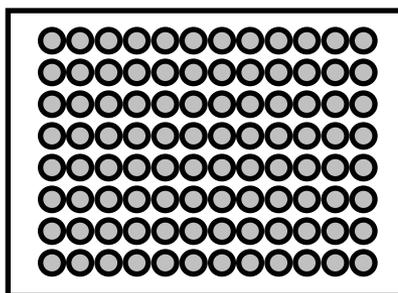
乳がん

“抗がん薬開発への貢献”

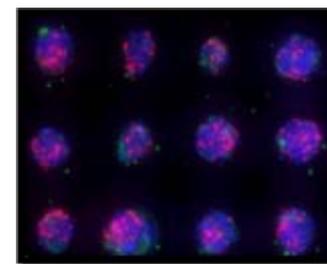
2012年4月、世界最大数144,000以上の患者由来のがん細胞バンクを持つ米国企業; Molecular Responseと提携し、がん創薬サービスを開始



患者由来がん細胞バンク



Cell-able™ Oncology

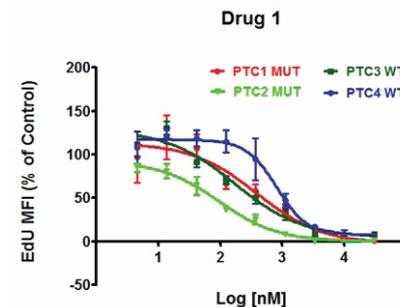


ハイコンテンツスクリーニング

バイオマーカー探索

抗がん薬治療

- 臨床試験前の薬効確認
- バイオマーカーに基づいた患者の選択
- 臨床試験デザイン的设计 等



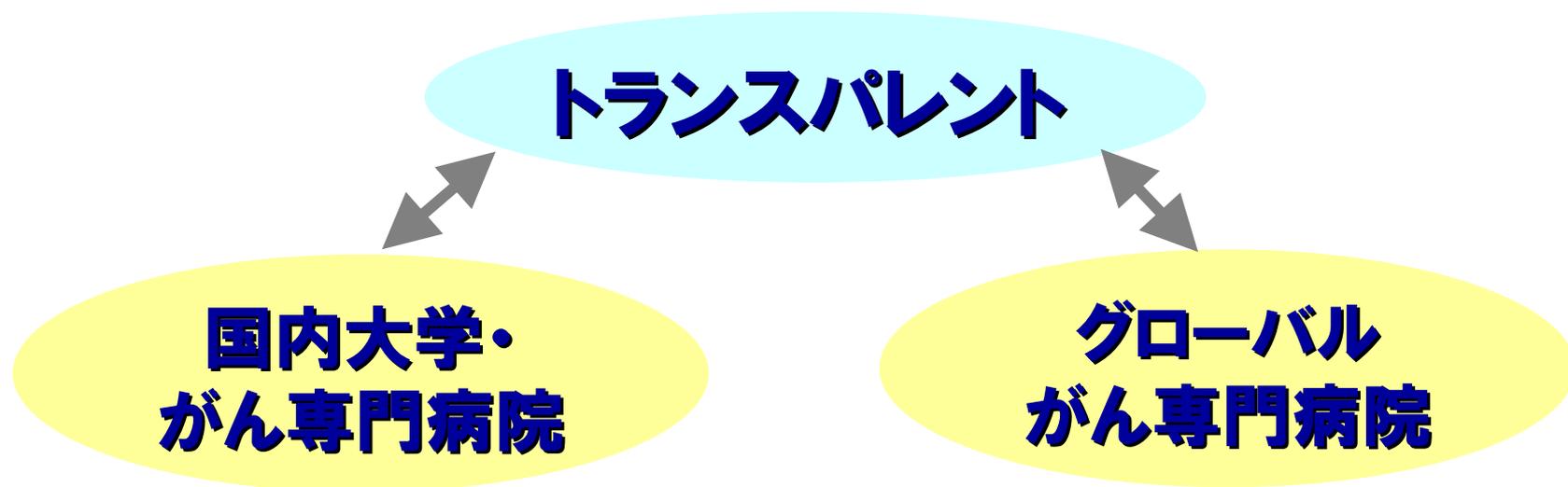
薬効確認

“臨床サービス:個の医療への適用”

がんは患者毎の個別性が高く、遺伝子や蛋白の異常を患者のがん細胞で研究する必要がある



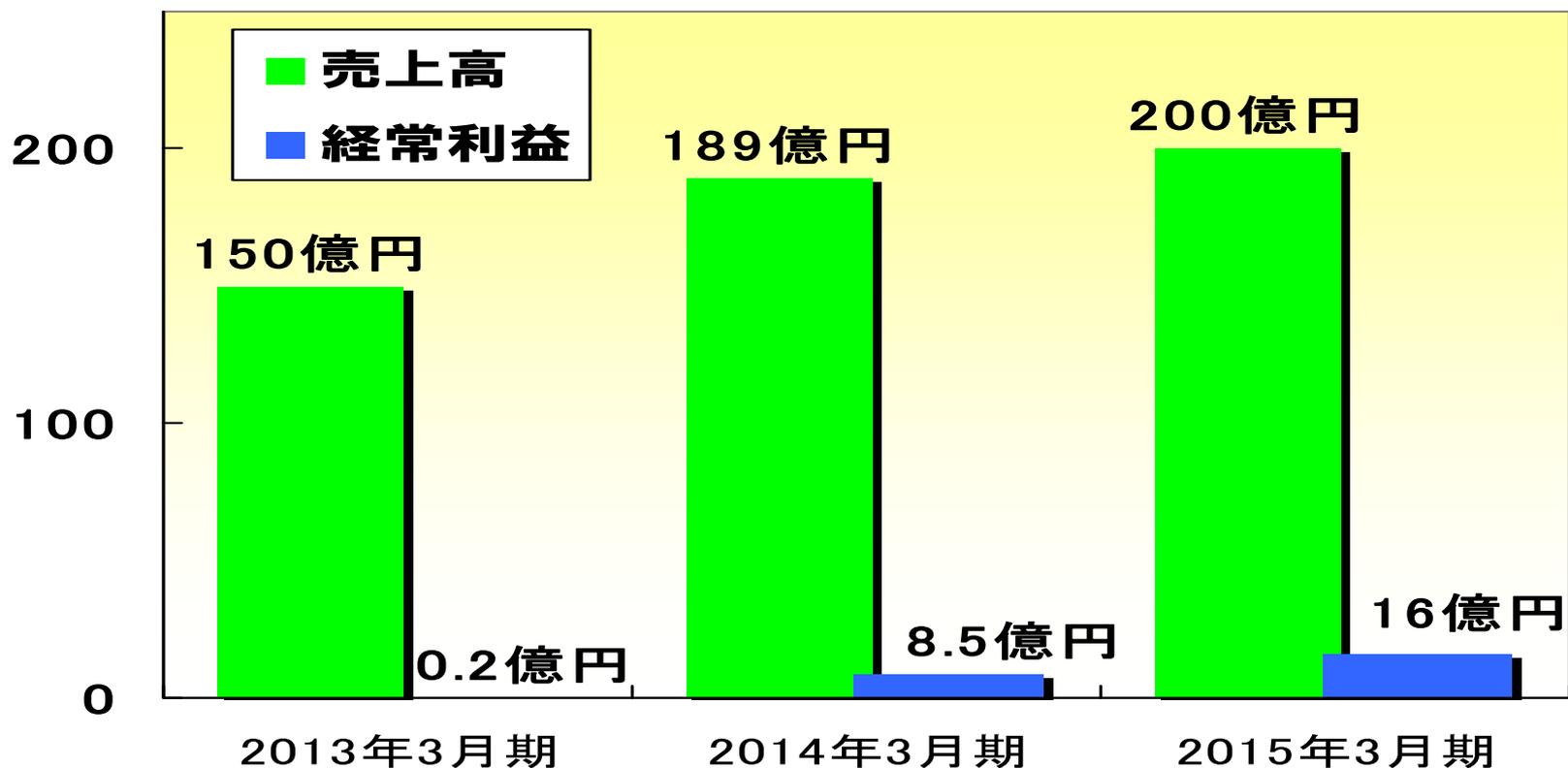
Cell-able™ Oncologyを活用した細胞培養による研究サービスの事業化を目指し、国内外のがん専門病院との共同研究を推進しています！



■ 中期経営計画について

【ポイント】

- 感光性材料事業：感光材部門の先端品へのシフトによる、円高抵抗力の強化。
エネルギー部門の赤字脱却
- 化成品事業：香料工場および淡路工場を稼動し、事業規模拡大へ
- 為替レートは、今期同様 ドル/円78円、ユーロ/円100円で計算。





東洋合成工業

(ご注意)

本資料の業績予想は、現時点において見積もられた見通しであり、これまでに入手可能な情報から得られた判断に基づいております。従いまして、実際の業績は、様々な要因やリスクによりこの業績予想とは大きく異なる結果となる可能性があり、いかなる確約や保証を行うものではありません。